

県立高校再編整備候補案について

【第4通学区】

通学区全体	<ul style="list-style-type: none"> 第4通学区の中学校卒業生数は、平成2年の8,024人のピークに比べ平成31年には4,684人(H2年比58.4%)と減少することが見込まれる。 総数決定基準に基づき、20校から17校に再編整備することが必要となる。
-------	--

木曽高校、木曽山林高校の統合

木曽高校

沿革

・大正 12 年(県)木曽中学校
(町)木曽福島実科高等女
学校

・大正 15 年(県)木曽高等女
学校

・昭和 23 年
(県)木曽西高等学校
(県)木曽東高等学校

・昭和 57 年木曽西高等学校
と木曽東高等学校統合
設置学科及び生徒数

・普通科
1 年 119 人、2 年 108 人
3 年 114 人、 計 341 人

・理数科
1 年 41 人、 2 年 36 人
3 年 34 人、 計 111 人

・定時制普通科
1 年 9 人、2 年 6 人
3 年 8 人、4 年 8 人
計 31 人

木曽山林高校

沿革

・明治 33 年(郡)乙種山林学
校

・明治 39 年 県立移管

【生徒数の状況】

・第 10 区の中学校卒業生数は、平成 17 年の 394 人に対し、平成 31 年には 234 人となることが予想される。160 人の減少で、およそ 59.4%となる。

・中学校卒業生数の減少により、第10区での募集学級数は、平成 17年の10学級に対し、平成31年には6学級となることが推定される。

【流出入】

・流出入による生徒移動が比較的少ない地域である。平成 17 年度入学生の場合、第 11 区への流出は公立高校及び私立高校をあわせて 37 人、第 11 区からの流入は 6 人である。

(平成 16 年度中学校卒業生の進学状況)

進学先	蘇南	木 曽	木 曽 山 林	第11区 公立 高校	第11区 私立 高校	第12区 高 校	その他 の区の 高校	県外	合計
福島 (割合)	2 2.9	45 64.3	17 24.3	1 1.4	1 1.4		3 4.3	1 1.4	70
上松 (割合)	7 11.5	35 57.4	13 21.3	5 8.2		1 1.6			61
南木曽 (割合)	23 46.0	13 26.0	4 8.0			1 2.0		9 18.0	50
檜川 (割合)		7 35.0		9 45.0	3 15.0		1 5.0		20
木祖 (割合)		14 43.8	8 25.0	6 18.8	2 6.3		2 6.3		32
日義 (割合)	1 3.3	16 53.3	8 26.7	1 3.3	3 10.0		1 3.3		30
開田 (割合)		6 42.9	6 42.9	1 7.1	1 7.1				14
三岳 (割合)	2 14.3	5 35.7	6 42.9		1 7.1				14
王滝 (割合)		9 47.4	5 26.3				1 5.3	4 21.1	19
大桑 (割合)	20 46.5	17 39.5	2 4.7	1 2.3	2 4.7			1 2.3	43
山口 (割合)	9 37.5							15 62.5	24
合計 (割合)	64 17.0	167 44.3	69 18.3	24 6.4	13 3.4	2 0.5	8 2.1		
第10区と他 (割合)		300 79.6			47 12.5			30 8.0	377

【入学者の状況】

・平成 17 年度入学生の場合、木曽高校普通科は 3 学級募集で入学

<p>・昭和 23 年(県)木曽山林高等学校 設置学科及び生徒数</p> <p>・農業科 1 年 39 人、 2 年 39 人 3 年 56 人、 計 134 人</p> <p>・工業科 1 年 39 人、 2 年 40 人 3 年 34 人、 計 113 人</p>	<p>者数は 119 人、理数科は 1 学級募集で入学者数は 40 人である。 また、木曽山林高校農業科は 2 学級募集で入学者数は 39 人、工業科は 1 学級募集で入学者数は 38 人である。</p> <p>【地理的状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽高校と木曽山林高校の両校は同じ木曽福島町内にあり、両校間の距離は 2.6km と比較的近接している。 ・木曽福島町から蘇南高校のある南木曽町までは 35km 程度離れており、電車を利用しても 40 分程度かかる。 ・木曽福島町から塩尻市までは 40km 以上離れており、電車を利用しても 45 分程度かかる。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽高校と木曽山林高校の両校については、募集学級数が平成 31 年には両校合わせて 4 学級程度になることが予想されることから、一定規模の生徒数を確保し、スケール・メリットを活かして、より良い教育環境を整えていくために、比較的近接している木曽高校と木曽山林高校を統合していく。 ・統合にあたっては、木曽の自然や環境などを活用し、林業を活かした魅力づくりを進めていく観点から、木曽高校の施設・設備の有効活用を図りながら、木曽高校を木曽山林高校に統合していく。 <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曽山林高校における林業などの専門教育に関する教育活動、木曽高校の普通科、理数科における教育実践やその成果などを活かして、普通科、理数科、専門学科を配置し、生徒の多様なニーズに対応していく。 ・生徒募集にあたっては、両校が保有する寮の有効活用を図りつつ、県内全域あるいは全国に向けて情報を発信して広い地域から生徒を集め、新たな特色につなげていくこともできる。 <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蘇南高校は、地理的な位置関係を考慮すると、地域の中学校卒業者の進学先として現状の配置を維持しておき、様々な工夫をして魅力ある学校づくりをより一層進めていく。その際、地域や地元中学校との連携を図るとともに、木曽高校と木曽山林高校の統合校との多様な学びのネットワーク化を進めていくことも必要である。
--	---

松本筑摩高校の多部制・単位制高校への転換

松本筑摩高校

沿革

- ・昭和 45 年(県)松本筑摩高等学校 定通併置独立校
- ・昭和 52 年全日制課程設置
設置学科及び生徒数
- ・全日制普通科
1 年 121 人、2 年 107 人
3 年 97 人、 計 325 人
- ・昼間定時制普通科
12 年度生 3 人
13 年度生 10 人
14 年度生 33 人
15 年度生 70 人
16 年度生 76 人
17 年度生 81 人
計 273 人
- ・夜間定時制普通科
1 年 27 人、2 年 27 人
3 年 22 人、4 年 19 人
計 95 人
- ・通信制 2,420 人

【生徒数の状況】

- ・第11区の中学校卒業生数は、平成17年の4,114人に対し、平成31年には3,934人となることが推定される。180人の減少で、およそ95.6%であり、生徒の減少率は比較的少ない地域である。
- ・中学校卒業生数の減少により、第11区での募集学級数は、平成17年の70学級に対し、平成31年には67学級と3学級程度の減少が見込まれる。

【流出入】

- ・第7区、第12区との流出入が多い。平成17年度入学生の場合、流出の状況は、第7区へは公立・私立あわせて182人、第12区へは110人の流出である。一方、第11区公立高校全日制への流入の状況は、第7区からは36人、第12区からは200人の流入である。

【入学者の状況】

- ・平成17年度入学生の場合、全日制は3学級募集で入学者数は117人、昼間定時制は2学級募集で入学者数は80人、夜間定時制は1学級募集で入学者数は22人である。

また、通信制の入学者総数は189人である。

(平成17年度松本筑摩高校全日制・定時制の中学校別入学者数)

進 学 先	松本筑摩 全日	割合	松本筑摩 昼間定時	割合	松本筑摩 夜間定時	割合
塩尻市内中学	5	4.3	4	5.0	2	9.1
東筑摩郡内中学	11	9.4	10	12.5	5	22.7
松本市内中学	78	66.7	24	30.0	10	45.5
南安曇郡内中学	21	17.9	24	30.0	1	4.5
第12区中学	1	0.9	6	7.5	0	0.0
その他の中学	1	0.9	12	15.0	4	18.2
合 計	117	100.0	80	100.0	22	100.0

(平成17年度松本筑摩高校通信制の地区別入学者数)

	生徒数	割合
松 本	75	40.8
安 曇	29	15.8
木 曽	6	3.3
諏 訪	33	17.9
伊 那	20	10.9
飯 田	21	11.4
合 計	184	100.0

(注)：聴講生及び併修生を除く

【地理的状況】

- ・JR中央本線・篠ノ井線・大系線、上高地線の利用による通学可能圏域が比較的広い地域である。
- ・電車(JR、上高地線)及び自転車が生徒の主なる通学手段である。最寄り駅の上高地線大庭駅から徒歩で約15分、大系線島高松駅からは徒歩で約20分であり、交通の利便性は比較的よい。

	<p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本筑摩高校には、現在昼間定時制課程、夜間定時制課程、通信制課程が設置されており、単位制も実施していることから、松本筑摩高校の全日制課程を募集停止し、多部制・単位制の独立校に転換していく。 <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転換に際しては、午前部、午後部、夜間部の昼夜開講の三部制とする。 ・第4通学区の定時制・通信制の中心校として、第4通学区内の定時制高校とのネットワーク化を図り、相互に連携をとりながら教育活動を展開していく。 ・生徒の多様な学習ニーズに対応するため、松本地域の産業界と連携して、生徒にとって魅力ある内容の講座を開設していくことも重要である。 ・生涯学習の観点から、一般社会人を対象として、幅広い教養を身につけるための講座を開設していく。その際には、地域のさまざまな人材を外部講師として積極的に活用していく。 <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本筑摩高校が独立校舎をもった多部制・単位制高校に転換することに伴い、同じ市内にある松本工業高校の定時制課程は、松本筑摩高校に統合する。 ・木曽高校と池田工業高校の定時制課程は、地理的条件から松本筑摩高校への統合が難しいため、現在の配置を維持していく。
--	--

大町高校、大町北高校の統合

大町高校

沿革

- ・ 明治 34 年(県)松本中学校
大町分校
- ・ 明治 37 年(県)大町中学校
- ・ 昭和 23 年(県)大町南高等学校
- ・ 昭和 34 年(県)大町高等学校

設置学科及び生徒数

- ・ 普通科
1 年 123 人、2 年 123 人
3 年 125 人、計 371 人
- ・ 理数科
1 年 41 人、2 年 41 人
3 年 43 人、計 125 人

大町北高校

沿革

- ・ 明治 45 年(町)大町実科高等女学校
- ・ 大正 11 年(県)大町高等女学校
- ・ 昭和 23 年(県)大町北高等学校

設置学科及び生徒数

- ・ 普通科
1 年 121 人、2 年 154 人
3 年 110 人、計 385 人

【生徒数の状況】

- ・ 第 12 区の中学校卒業生数は、平成 17 年の 668 人に対し、平成 31 年には 516 人と予想される。152 人の減少で、およそ 77.2%になる。
- ・ 中学校卒業生数の減少により、第 12 区の募集学級数は、平成 17 年の 12 学級に対し、平成 31 年には 9 学級になることが見込まれる。

【流出入】

(平成 16 年度中学校卒業生の進学状況)

進学先	池田工業	大町	大町北	白馬	公立高(南安曇内)	公立高(松本市内)	公立高(塩尻東筑)	第11区私立	その他の区高校	県外	合計
大町第一(割合)	8 6.1	36 27.5	29 22.1	6 4.6	21 16.0	11 8.4	3 2.3	11 8.4	6 4.6		131
仁科台(割合)	16 10.6	33 21.9	30 19.9	5 3.3	31 20.5	21 13.9		10 6.6	3 2.0	2 1.3	151
高瀬(割合)	21 19.8	16 15.1	6 5.7	5 4.7	26 24.5	20 18.9	6 5.7	3 2.8	2 1.9	1 0.9	106
松川(割合)	13 12.9	14 13.9	14 13.9	4 4.0	31 30.7	17 16.8	1 1.0	7 6.9			101
八坂(割合)	3 27.3		3 27.3	1 9.1	1 9.1	1 9.1				2 18.2	11
美麻(割合)	2 9.5	2 9.5	2 9.5	2 9.5	6 28.6	2 9.5		1 4.8	1 4.8	3 14.3	21
白馬(割合)	4 4.3	21 22.8	14 15.2	31 33.7	3 3.3	1 1.1	1 1.1	4 4.3	8 8.7	5 5.4	92
小谷(割合)	3 10.0	6 20.0	4 13.3	11 36.7	3 10.0				2 6.7	1 3.3	30
合計(割合)	70 10.9	128 19.9	102 15.9	65 10.1	122 19.0	73 11.4	11 1.7	36 5.6	22 3.4	14 2.2	643
2区と他(割合)		365 56.8				264 41.1					

(平成 17 年度第 12 区高校の中学校別入学者数)

進学先	池田工業	大町	大町北	白馬	合計	割合
東筑摩郡内中学	11	2	2	1	16	3.3
松本市内中学	2	0	1	0	3	0.6
南安曇郡内中学	44	32	14	1	91	19.0
第12区中学	70	128	102	65	365	76.2
その他の中学	0	0	2	2	4	0.8
合 計	127	162	121	69	479	100.0

- ・ 第 11 区との流出入が多い。平成 17 年度入学生の場合、第 12 区から第 11 区公立高校全日制への流出は 200 人、私立高校への流出は 36 人である。公立高校全日制への流出 200 人のうち、122 人は南安曇郡内の高校、57 人は松本市内の普通科高校への流出である。
- ・ 一方、第 11 区から第 12 区公立高校全日制への流入は 110 人である。110 人のうち 91 人は、南安曇郡内の中学校からの流入である。
- ・ 第 12 区から第 11 区への流出人数は、流入人数より 100 人程多く、将来的にもこの傾向は続くことが推定される。

【入学者の状況】

- ・ 平成17年度入学生の場合、大町高校普通科は 3 学級募集で入学

	<p>者数は122人、理数科は1学級募集で入学者数は40人である。また、大町北高校普通科は3学級募集で入学者数は121人である。</p> <p>【地理的状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大町高校と大町北高校の距離は1.2kmと近接している。 ・信濃大町駅から大町高校へは徒歩約10分、大町北高校へは徒歩約20分である。 ・大町北高校は北大町駅から1.3kmであるが、大町駅発着の列車ダイヤが多いことから、大町北高校生の北大町駅利用者は電車通学者のほぼ3分の1程度で、残りの3分の2は大町駅を利用している。 <p>【総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の減少に伴い将来的には募集学級数が、大町高校と大町北高校の両校を合わせても5学級程度になることが見込まれることから、両校を統合して、一定規模の学校としてスケール・メリットを活かし、質の高い教育をしていく必要がある。 ・地理的な条件や交通の利便性などの立地条件等を考慮し、統合後は大町高校の校舎・校地を利用していく。 <p>【再編後のイメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大町高校と大町北高校の統合にあたっては、大町高校のこれまでの進学指導などの実績や、大町北高校で実践されている特色ある学校設定科目などの取り組みの成果等を活かして、普通科、理数科を設置し、教育の充実を図っていく。 ・両校の生徒会活動や部活動、さらには大町北高校の長年にわたる地道な取り組みに代表される生徒の自主的活動なども、統合によってより一層の活性化が期待できる。 <p>【近隣校の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白馬高校は、大町市から約25km離れており、電車を利用しても40分以上かかる。このような事情などを考慮して、白馬高校は、地域の中学校卒業者の進学先として現状の配置を維持し、白馬という地理的利点を活かして、全国募集なども視野に入れた様々な工夫をして、魅力ある学校づくりを一層進めていくことが必要である。 ・第11区の工業科の専門高校は、第12区からは距離的に離れており、大町市から松本市まで通学する場合、35km以上離れているため60分以上かかる。池田工業高校は大町市から約10kmの距離にあり、第12区唯一の専門高校として、地域や地元企業との連携を深めながら、専門教育やキャリア教育などの充実を図っていく必要があることから、現在の配置を維持していく。
--	--

松本筑摩高校（多部制・単位制）と松本工業高校定時制の再編

松本工業高校

沿革

- ・昭和 14 年(県)松本工業高校(本科、第二本科)
- ・昭和 23 年(県)松本工業高等学校（全日制、定時制）
設置学科及び生徒数
- ・夜間定時制工業科
1 年 15 人、2 年 14 人
3 年 10 人、4 年 15 人
計 54 人

【入学者の状況】

- ・松本工業高校定時制は、募集定員 40 人に対して、過去 3 年間の入学者数の推移は、平成 15 年度 11 人、16 年度 13 人、17 年度 13 人である。

(第 4 通学区定時制課程の募集定員・入学者数・在籍者数の推移)

高 校 名	H13			H14			H15			H16			H17		
	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数	募集 定員	入学 者数	在籍 者数
木 曽	40	3	28	40	11	33	40	7	32	40	2	26	40	9	32
松本工業	40	13	42	40	16	47	40	11	49	40	13	52	40	13	54
松本筑摩(昼)	80	80	221	80	80	238	80	82	258	80	80	270	80	80	273
松本筑摩(夜)	40	26	99	40	36	98	40	26	91	40	27	93	40	22	95
池田工業	40	7	39	40	14	44	40	10	40	40	7	32	40	8	35
合 計	240	129	429	240	157	460	240	136	470	240	129	473	240	132	489

(注)：再募集、追加募集をすべて含んだ入学者数である。

(平成 17 年度第 11 区定時制高校の中学校別入学者数)

進学先	松本工業	松本筑摩 昼間	松本筑摩 夜間	合計
塩尻市内中学	3	4	2	9
東筑摩郡内中学	0	10	5	15
松本市内中学	8	24	10	42
南安曇郡内中学	1	24	1	26
第12区中学	0	6	0	6
その他の中学	1	12	4	17
合 計	13	80	22	115

【地理的状況】

- ・松本工業高校と松本筑摩高校はともに松本市内にあり、定時制の統合により、定時制の生徒の通学の便に与える影響は少ない。

【総括】

- ・松本工業高校定時制は工業科であるが、工業の専門科目を学びたいという積極的な理由で入学してくる生徒は少なくなっている。
- ・多様な学習歴や生活歴を持った生徒のニーズに応えるため、学ぶ時間帯や学ぶ年数を自分で選択できるとともに、自分の目的や進路希望にしたがって科目選択などができる多部制・単位制高校に統合していく。

【再編後のイメージ】

- ・生徒や保護者、地域の要望に応じて、空き教室を活用した相談室などを開設し、カウンセリング体制の充実を図っていく必要がある。
- ・生徒一人ひとりが望ましい職業観を身につけ、進路選択や自分の人生設計を考えるために、教育課程の中に専門科目を選択科目として位置付けていくことも重要である。

【近隣校の状況】

- ・木曽高校と池田工業高校の定時制課程は、地理的に松本筑摩高

	校から離れていることから、現在の配置を維持していく。その際、松本筑摩高校とのさまざまな連携、ネットワーク化を図り教育内容を充実させていく。
--	---

